

アメリカをいらだたせているのはプーチンであって、ウクライナではない

By Finian Cunningham

September 06, 2014 (Information Clearing House)

ロシアがウクライナを侵略したとか、土地を奪ったとか言われていることは忘れよう。アメリカにとって本当の問題はウラジミール・プーチンである。もっと正確に言えば、本当の問題は、プーチン大統領指導下にある、強い、独立したロシア、自国の国家的権利と、国際的法規の遵守を標ぼうして立ち、破産したドルを支えるというような、アメリカの覇権的・利己的利益のために、つくばって働くようなことのないロシアである。

アメリカの指導する NATO 軍事同盟が、今週ウェールズで会合するに際して、明らかなことは、ワシントンとそのヨーロッパの子分たちが、冷戦中の 65 年前に作られた組織の新しい目的を見つけ出そうと必死に議論することである。ウェールズ、ニューポート市でのこのサミットは、“冷戦の終わり以来、最も重要な NATO 会議”と銘打たれている。なぜだろうか？ これは 20 年以上前のことだ。

米大統領バラク・オバマは、28 の NATO 加盟国のメンバーを含め、60 人の世界指導者とともに臨席する。恥知らずにも、“ヨーロッパをロシアの侵略から守る”という高く掲げたレトリックが存在する。NATO 議長アンダーズ・フォーク・ラズムッセンは、開会の挨拶で厚かましくも、「ロシアはウクライナを攻撃している」と言った。

「それで我々は、ロシアに対し、ウクライナの国境から軍隊を引くように、そして兵器と戦闘員のウクライナへの流入を止めるように、呼びかけ続けています」と、ラズムッセンは、ひとかけらの証拠もなく、証拠を示すという素振りさえなしに言った。

NATO サミット開会の前日、バラク・オバマはエストニアで演説し、全く同じ種類の挑発的レトリックを用い、ロシアを、ウクライナの侵略と国際法違反で告発した。米大統領は「ロシアに財政援助され、ロシアから武器供与され、ロシアによって訓練された、しばしばロシアの指令を受けた、ウクライナの分離主義者たち」といった誹謗の言葉をまくし立てた。

NATO へのロシア使節アレクサンドル・グルシュコが、西側リーダーの口にするこのよう

な非難について言ったように、「それらは事実ではない、作り事である。」グルシュコは、NATO はその向う見ずな振舞いを支えるいかなる証拠もなしに、ロシアとの緊張をエスカレートさせていると言った。「軍隊の集合も軍事的ハードウェアの動きも、これまでなかった」と、彼は付け加えた。

驚くべきことは、NATO 会議を取り巻くすべての軍事的宣伝が、大言壮語の集団的安全保障と、“我々の東欧のメンバー”を保護するための誓いを含めて、いかなる信用できる証拠もなしに言い出されていることで、ロシア軍や戦車の動き、ミサイル発射台やウクライナ領の飛行機侵犯の衛星写真のようなものは、全くないのである。まるで幻想と先入観念を根拠にして、方針が立てられているようだ。

しかし、だからといって、現実の心配事がそこに働いていないというわけではない。心配事は確かに存在する。しかし西側諸国と、その忠実な、いわゆるニュース・メディアは、根底にあるその心配事が何であるかを隠すための、完全なプロパガンダ態勢を敷いている。

オバマや他のアメリカの高官たちが、過去 6 カ月にわたって強調してきたことは、NATO の欧州メンバーが、NATO の財政について責任ある行動を取ってほしいということだった。その 65 年の存在期間を通じて、アメリカは、その断然最大のメンバーであることによって、NATO の仕事を大幅に財政負担してきた。この歴史的なアメリカの気前良さには十分な理由がある。NATO はアメリカの出先機関として、ヨーロッパに対し支配的な、軍事的・政治的・経済的なプレゼンスを行使するのに役立ってきた。NATO がなければ、ワシントンは、そのヨーロッパの“同盟国”に対する影響力を、かなり縮小させられたことであろう。とりわけワシントンは、もし NATO による大陸の把握がなければ、ヨーロッパとロシアのより緊密な政治的・経済的な絆という自然で歴史的な傾向を、認めざるを得なくなるだろう。

冷戦が終わって以来、過去 20 年間——ということは NATO の目的が終わって以来——ヨーロッパのこの組織への資金拠出は、30%以上から 20%に落ちた。言い換えると、これはヨーロッパ諸国が冷戦後の時代になると、NATO を自分たちにあまり関係のないものとして、興味を失い始めたということである。ワシントンが躍起になっていることは、ヨーロッパの安全に対するロシアの脅威を説くことによって、NATO の重要さを復活させることだと思われる。NATO の復活は、ヨーロッパにおけるアメリカのプレゼンスの復活を意味するもので、これは本質的にアメリカの地球的覇権である。

これによって、なぜアメリカが過去 1 年ほど、ウクライナをめぐるロシアとの緊張を高めようとしてきたかの、本当の意味が分かるだろう。これは必然的にモスクワとヨーロッパの間の亀裂の増大を招いた——この 2 者間には最近まで実質的な、経済的な貿易パートナ

ーシップに基づく親密な外交関係があったにもかかわらず。

もちろんこの政治的努力において、ワシントンは、緊張を高めるのに意欲的なヨーロッパの共謀者たちを見出した。英国政府はアメリカのアジェンダのために、信頼される従僕の役割を果たしている。これはアメリカがキエフで、アルセニー・ヤツェニュークを頭とする臨時政府を指名したり、ポーランドやバルト諸国で、親西側の体制を作らせたりしたのと同じである。

アメリカの地政学的覇権——言われているロシアの侵略ではない——の根底にあるアジェンダは、今週初め、バラク・オバマと彼のエストニアの同職者 **Toomas Hendrik Ilves** の共同スピーチの中で露見した。二人のリーダーが NATO とロシア間の 1997 年の **Founding Act** について見解を問われたとき、彼らは NATO の非拡大方針は今では余計なものだ、なぜなら「風景が変わったのだから」と言った。

このアメリカで教育されたエストニアの指導者は、「それが、ボーリス・エリツィンがロシア大統領だった 1997 年当時の安全保障環境だった。そして国連憲章、あるいは 1975 年のヘルシンキ **Final Act** にも、1990 年のパリ憲章にも抵触するものは何もなかった」と言った。

Ilves が、ロシアは国連憲章や他の条約を破ったという、根拠のない主張を繰り返していることに注目すべきである。しかし重要なのは、彼が前ロシア指導者のエリツィンに言及していることである。エリツィンは、アメリカやヨーロッパにとって有難い存在だった。なぜなら彼は、弱い、曲げやすい人物で、ソ連の崩壊の後、新しく開かれたロシア領土で、西側の資本に自由を与えた人だったからである。エリツィンの時代はまた、西側の資本に緊密に結びついたロシアの寡頭政治家による、ひどい腐敗の時代でもあった。その腐食性の文化は、ウラジミール・プーチンが 2000–2008 年と、更に 2012 年に、大統領として 2 度選ばれるとともに終わりを告げた。

オバマはそのスピーチの中で、1997 年の NATO - ロシア **Founding Act** 以来、後者（ロシア）が通用しなくなったとして、「多くが変わった」ことに同意を示した。しかしオバマの言葉は、より深い政治的憂慮について、もっと多くのことを語っている。彼はロシアについてこう言う——「私は、我々が望むのは強い、生産的な、協調的なロシアだということを、いつも言ってきました。しかしそれを達成する方法は、国際的基準を守ること、経済を改良することによってであり、他の人々が求める品物やサービスを現実にもどのように作り出し、また彼らの国民にどう機会を与え教育するか、に焦点を当てることによってです。過去数年間、彼らが取ってきた道はそういうものではありませんでした。彼らのウクライナでの戦略

を考えれば、確かにそうになっていないことがわかる。」

そのように、オバマすなわちワシントンが心配しているのは、ウクライナとかロシア侵略といわれるものではなく、「経済的な生産と協調」、すなわち西側資本との協調の問題である。もっと重要なのは、「それは彼ら（ロシア政府）がここ数年間、取ってきた道ではなかった」こと、言い換えると、ロシアが、プーチン大統領政権下でそれを西側に許さなかったことで、これが最近のウクライナ危機に先立って存在した。

プーチンのロシアが、アメリカのボールで競技をしないという、現実の、根底にある懸念は、今年初め 3 月 23 日のニューヨーク・タイムズのオピニオン欄で、モスクワへの前米大使 Michael McFall によって明確に述べられている。

クリミア編入という間違った主張にもかかわらず、マクフォールはこう書いている——「ウラジミール・プーチン大統領のクリミア編入の決断は、ヨーロッパの冷戦の時代を終わらせた。ゴルバチョフ - レーガンの時以来、時代は、ロシアと西側での、協調と論争の交替という特徴を示したが、そこには常に、ロシアが次第に国際的秩序に加わりつつあるという底流の感覚があった。それがなくなった。」

この前アメリカ大使は更にこう言って嘆いている——「ソ連秩序の崩壊は、ソ連内部での民主主義や市場とか、ロシアの西側への統合といったものへ、滑らかに推移することはなかった。」言い換えると、ロシアはアメリカの利害に沿うような滑らかな推移を辿らなかった。

マクフォールは、このロシアが「西側への統合」をしなかったことの罪をプーチン大統領に負わせ、彼を独裁者と呼び、古いソビエト連邦時代に帰ろうとするものだと非難している。マクフォールのプーチンに対する悪口は誹謗に過ぎないが、そこに隠しきれないものは、プーチンのロシアが従僕国家のように振る舞わないことに、ワシントンがひどく不満をもっており、NATO とロシア間に **Founding Act** を締結した当時のエリツィンのように、思い通りにいかないことに、いらだっているということである。

これこそワシントンが今、**Founding Act** を破棄して、ロシアの国境沿いに NATO を拡大して配備しようとする理由である。

マクフォールは NY タイムズのコラムを、ロシアの孤立と懲罰制裁を要求して終えているが、これはその後数か月ますます激しくなった政策である。

そしてアメリカの為政者たちが、プーチン大統領が、地域間取引や、ユーラシア諸国、イラ

ン、中国や、他の BRICS 諸国、それにラテン・アメリカとの開発同盟の筏を漕ぎ出して以来、ロシアへの攻撃的態度を一段と強めるようになったのは、偶然の一致などではない。プーチンが宣言した、エネルギー取引の決済には、米ドルをやめて相互通貨を用いるという動きもまた、アメリカの覇権主義的利益にとって脅威として浮上してきた。プーチンのロシアはまた、過去 3 年間、そのシリアのアラブ同盟を助けており、米 - NATO の犯罪的な、この国での政権交替計画に抵抗している。

これが、ワシントンがなぜ、“ウクライナ危機”によって NATO を囲い込もうとしているかの文脈である。ロシアの侵略という話ではない。プーチンが、アメリカの帝国主義的命令に屈しない、独立した世界的指導者だという話である。

この記事へのコメントで最も支持数の多いものを、参考に付記する：

現在 80 歳のアメリカ市民である私にとって驚くべきことは、自分の祖国に起こり得る最上のことは、ロシアが世界の政治で指導的立場に立つことだと思うほどに、我々が墮落したことである。ウラジミール・プーチンは、オバマやバイデンのような者たちと比べたら巨人である。オバマのような者がどこの国にいるだろうか？ この宇宙のいかなる悪意ある力が、私のかつて偉大だった国家をこのような指導者たちで罰したのだろうか？